

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又テ代理人ヲ出ス事ヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

- 一、組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト
 - 二、組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト
 - 三、組長ノ諮詢ニ應スルコト
 - 四、其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項
- 第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ招集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタル時ハ組長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條 第十九條乃至第二十條ノ二ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條 組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

- 一、開會ノ日時及場所
- 二、代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數
- 三、出席者ノ員數
- 四、議事ノ要領
- 五、議決シタル事項
- 六、賛否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及検査員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

重要物産同業組合法施行規則

重要物産同業組合法施行規則

六七八

第二十九條 組合ハ検査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ検査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及検査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徴收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ、經費ノ決算及

業務成績ノ報告ハ事業年度後三月内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ

届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ地方長官

ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別

段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

清算人ハ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十七條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第三十八條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清

算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四十條 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルニハ組合會ノ決議

ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 聯合會ヲ設置セムトスルトキハ各組合ニ於テ選定シタル創立委員ヲ以テ

創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定款、其ノ他議定シタル事項、各組合ノ組

重要物産同業組合法施行規則

六七九

重要物産同業組合法施行規則

六八〇

合會ニ於ケル聯合會設置ニ關スル決議録ノ謄本及創立委員會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ農商務大臣ニ設置ノ認可ヲ申請スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號、第五號、第八號乃至第十一號ニ掲クル事項並所屬組合ノ名稱、加入脱退、權利義務、代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條及第八條ノ規定ハ創立委員會ニ之ヲ準用ス

第四十二條 聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條 第一條、第十二條、第十三條第二項、第十四條、第十六條乃至第二十條ノ二、第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 地方長官ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十四條 組合ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一、定款變更ノ認可

二、役員ノ選任並検査員ノ選任及解任ノ認可

三、重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任

四、重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可

五、検査員ノ服務ニ關スル規定ノ認可

六、經費ノ豫算及徴收法ノ認可

七、經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ豫算ヲ命スルコト

八、地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト

九、重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分

前項ノ規定ハ一府縣内ヲ區域トスル聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リテ處理シタルトキハ第一項第五號ノ場合ヲ除クノ外農商務大臣ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第二號乃至第四號ノ報告ハ組長及副組長ニ限ル

重要物産同業組合法施行規則

六八一

重要物産同業組合法施行規則

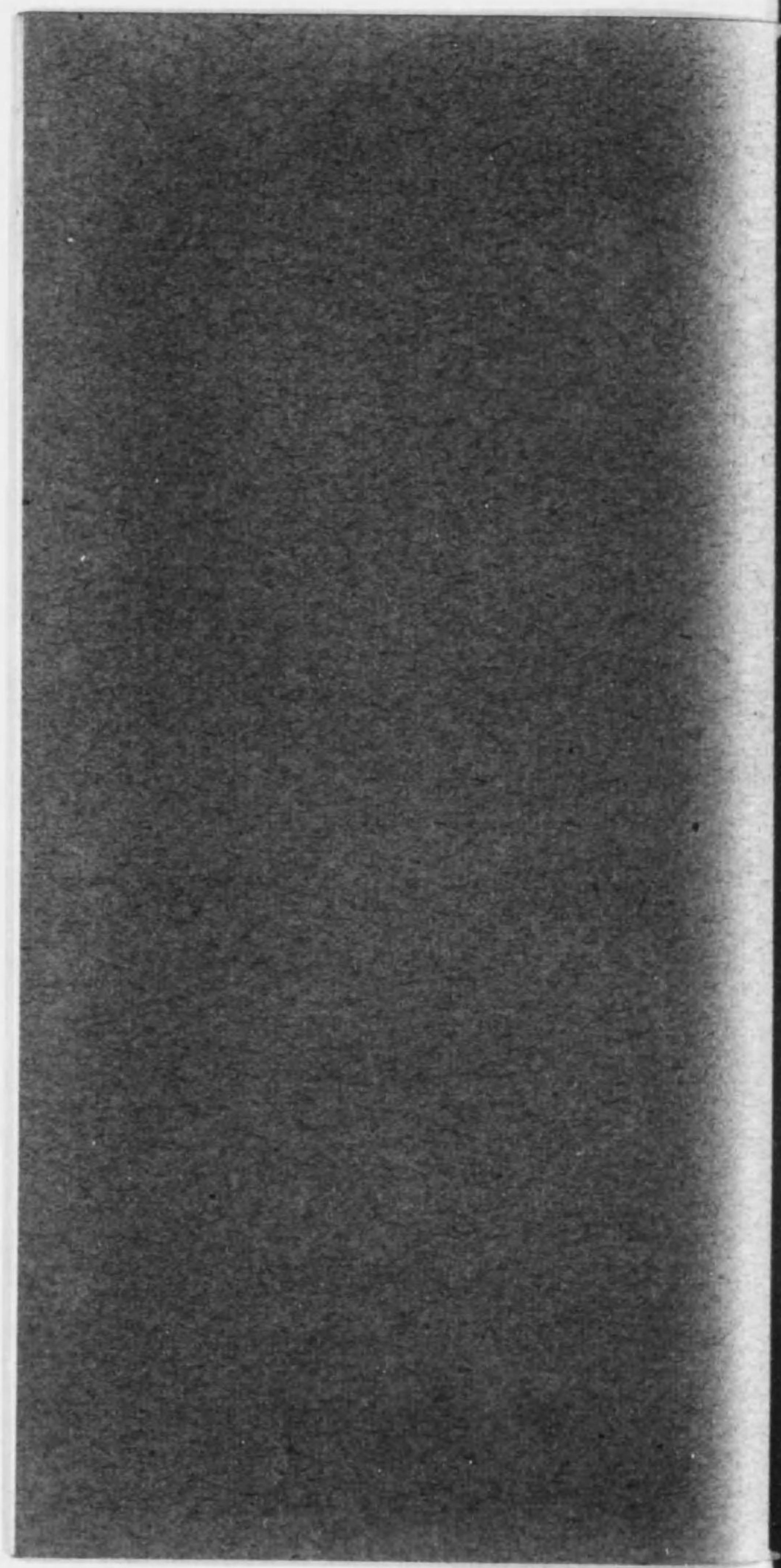
六八二

- 第四十七條 本則中地方長官トアルハ主ナル事務所所在地ノ地方長官トス
- 第四十八條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ノ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス組合又ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ關係地方長官ニ於テハ組合又ハ聯合會ニ對シ其ノ管内ニ於ケル業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ遂行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得
- 第四十九條 本則中府縣郡市トアルハ府縣制、郡制、市制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ該當ス
- 第五十條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第五十一條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第五十二條 本則施行前ニ爲シタル發起ノ認可ハ第十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
- 第五十三條 本則施行前組合又ハ聯合會設置認可ノ申請アリタル場合ニ於テハ本則施行後六月間仍從前ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

- 第五十四條 組合又ハ聯合會ノ定款ニシテ本則ノ施行ニ依リ變更ヲ要スルモノニ付テハ本則施行後一年內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五十五條 明治三十四年農商務省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

重要物産同業組合法施行規則

六八三



水産組合規則

〔大正五年六月三十日農商務省令第十五號
大正九年八月二十八日同省令第二十六號改正〕

第一條 本則ニ於テ組合ト稱スルハ漁業法第五十一條ノ規定ニ依リ設置スル水産組合
ヲ謂ヒ聯合會ト稱スルハ同法第五十三條ノ規定ニ依リ設置スル水産組合聯合會ヲ謂
フ

第二條 組合又ハ聯合會ハ漁業權又ハ入漁權ヲ有スルコトヲ得ス

第三條 組合又ハ聯合會ニハ評議員會ヲ置クコトヲ得

第四條 組合又ハ聯合會ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一、設置又ハ解散ノ認可

二、定款變更ノ認可

三、地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト

四、重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分

五、重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ検査員ノ選任又ハ

水産組合規則

- 解任
- 六、經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ變更ヲ命スルコト
 - 七、役員ノ選任並検査員ノ選任及解任ノ認可
 - 八、重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可
 - 九、検査員ノ服務ニ關スル規程ノ認可
 - 十、經費ノ豫算及徴收法ノ認可
- 地方長官前項ノ規定ニ依リ處理シタルトキハ第一號乃至第六號ノ場合ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ第五號中検査員ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第五條 組合又ハ聯合會ハ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ規則、定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサルトキハ其ノ位置ヲ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ
- 第一項ノ届出又ハ前項ノ報告アルタルトキハ地方長官ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ組合ノ地區又ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ場テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

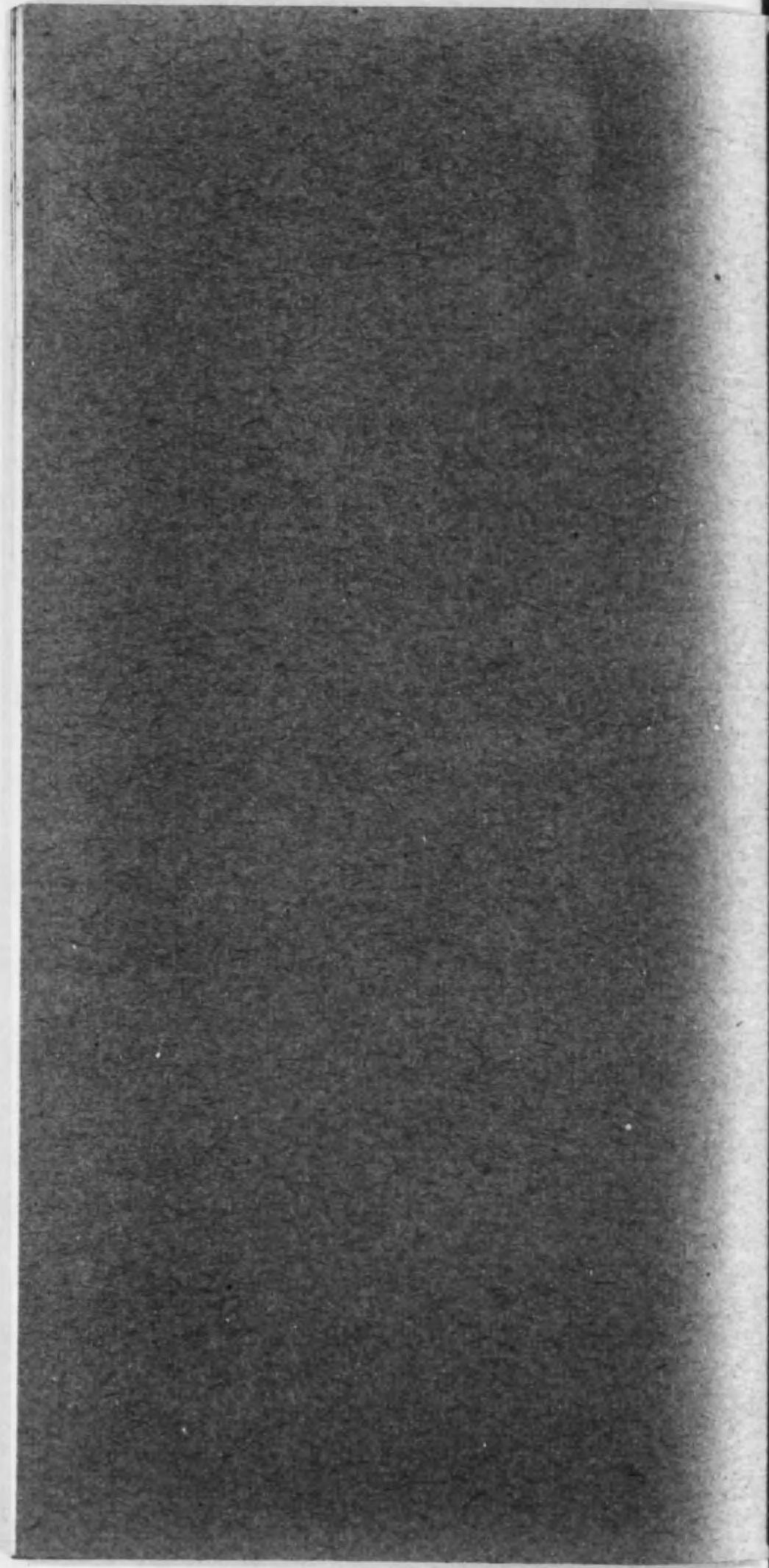
第七條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條 組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第一條及第十三條、第十五條乃至第二十二條、第二十三條第二項、第二十四條乃至第三十三條、第三十五條乃至第四十四條及第四十九條ノ規定ヲ準用ス

附 則

第九條 本則ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第五十二條乃至第五十四條ノ規定ヲ準用ス



公有水面埋立法

(大正十年四月九日法律第五十七號)

第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ

公有水面ノ开拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス

本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス

第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徴シ之ヲ爲スヘシ

第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ

公有水面埋立法

得ス

一、其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ
二、其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ
三、其ノ埋立カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルト

第五條 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當ス

ル者ヲ謂フ

- 一、法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者
- 二、漁業權者又ハ入漁權者
- 三、法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル

四、慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ

漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス

第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額ヲ供託スヘシ

但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
登録シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託金ニ對シテモ其權利ヲ行フコトヲ得

第八條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル

供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ノ生スヘキ工事ニ着手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ着手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設力埋立ノ爲其效用ヲ妨ケラルルトキハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ免許料ノ徵收及歸屬ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ着手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ

地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前ニ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之ヲ補償スヘシ

第十六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

第十七條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社ニ承繼ス

第十九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

第二十條 前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シテ四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス

第二十二條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滯ナク

地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得但シ埋立地ニ埋立ニ關スル工費用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定スル場合ヲ除クノ外地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣

功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシテ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラス
 前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十五條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第二十六條 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル處分ノ制限ヲ定メタル場合ニ於テハ地方長官ハ第二十二條ノ竣功認可ヲ爲シタル後遺滞ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ
 不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付テハ準用ス地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除シタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十八條

同條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ效力ヲ生セス

第二十九條 前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十條 地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ着手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功認可前ニ限り地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、埋立ニ關スル工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除公有水面埋立法

却セシメ、損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一、埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二、埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三、詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四、埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スル虞アルトキ
- 五、公有水面ノ狀況ニ因リ必要ヲ生シタルトキ
- 六、公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ
- 七、前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲

必要ナルトキ

前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アリタルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第三十三條 埋立ニ屬スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其

ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更生セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ理由アリト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

一、免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ

二、第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ着手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ
前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

第三十五條 埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復

公有水面埋立法

復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムル者ニ付埋立ノ免
許ヲ受ケタル者申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復
ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域
内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコ
トヲ得

第三十六條 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲
シタル者ニ關シ之ヲ準用ス

埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ
必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ
埋立ノ免許アリタルモノト看做ス

埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立ノ追認ニ關シ之ヲ準用ス

第三十七條 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ
規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ

要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者其ノ他ノ場合ニ
於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十八條 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ
地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅
ニ次クモノトス

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ參千圓以下ノ罰金ニ處
ス

一、埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者

二、詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者

三、埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利
用ヲ妨害シタル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ貳千圓以下ノ罰下ニ處ス

一、第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタル者

二、第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許

公有水面埋立法

其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事ヲ爲シタル者
三、第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者
第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰
金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ
埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條
ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官
ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國
ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付
ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ
訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタ
ル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴訟スルコト
ヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタ
ル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大
臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕
易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區
會又ハ區長ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ
町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年四月勅令第一九三號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スル事ヲ得地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スハ手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

公有水面埋立法施行令

(大正十一年四月七日勅令第九十四號)

第一條 公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス
都市計画法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條 埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

- 一、出願人ノ住所職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ
- 二、埋立ノ場所及其ノ面積
- 三、埋立ノ目的
- 四、埋立ニ關スル工事ノ著手及竣工ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工

公有水面埋立法施行令

公有水面埋立法施行令

七〇六

事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一、埋立ニ關スル工事ノ計劃説明書

二、埋立ニ關スル費用ノ明細書

三、公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

四、公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ効用ヲ妨ケラルヘキモノアルトキハ其ノ施設ノ種類及其ノ施設ヲ爲シタル者ヲ記載シタル書面

五、一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六、海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ掲クルモノノ外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ通

第三條 埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ屆書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ掲タル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ屆書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ三月以內ニ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ届出ヲ爲シタルトキハ之ヲ共同出願人トス
第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社カ其ノ發起人ノ爲シタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社カ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

第四條 地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

第五條 場合ニ於テ埋立區域ヲ制限シ二以上ノ埋立ヲ併立セシメ得ルトキ亦前項ニ同シ

公有水面埋立法施行令

七〇七

第五條 同一區域ニ亙ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價值最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ次ニ出願受理日先ナルモノヲ免許スヘシ

前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條 地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ掲ケル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條 地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其ノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於

テ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ開止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヘタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程定ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設ヲ爲スモ尙損害アル場合ニ於テ其ノ損害ニ付亦同シ

第十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議請ヒタルトキハ當事者ハ連名ニハ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ願末ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ

受ケタル者ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ
裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書協議ヲ
爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第十二條 地本長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ
有スル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ
但シ告知スルコト能ハサル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟ヌスシテ裁定ヲ爲スコ
トヲ得

第十三條 地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立
法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付ス
ルコト能ハサルトキハ其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ公有
水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス
第十五條 公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求ムトスル者ハ其ノ

目的及事由ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要
領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ
前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟ヌスシテ處分ヲ爲スコ
トヲ得

地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ
期間ヲ指定シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖モ必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準
シ施設又ハ補償ヲ命スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三
ヲ埋立ノ免許料トシテ徵收スヘシ

埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之
ヲ認定ス

第十七條 公共團ノ爲ス埋立、祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利ヲ
公有水面埋立法施行令

公有水面埋立法施行令

七一二

目的トセサルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ爲ス埋立ニ付テハ免許料ヲ徴收スルコトヲ得ス

公共團體ノ爲ス埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ變更シタルトキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徴收ス作シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利用方法變更ノ日ヲ標準トス

前項ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第十八條 免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル河川港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免許料ノ全部又ハ一部ヲ其ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十九條 免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半額ニ付テハ地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコト

ヲ得

免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第十七條 第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徴收スル場合ニ於テ地方長官ハ免許料ノ額及納付期限ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

第二十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間ノ伸長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ起算シ少クトモ二週間前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邱内ニ付テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又ハ使用ヲ爲スヘキ土地ノ所在、區域及現況、所有者及占有者ノ住所及氏名並立入又ハ使用ノ目的時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

第二十三條 公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知又ハ告示ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

公有水面埋立法施行令

七一三

第二十四條 公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲ケル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ

地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者又ハ承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲ケル事項ヲ告示スヘシ

第二十五條 竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ添附スヘシ

第二十六條 公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

一、耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置

二、開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナル工作物ノ設置

三、簡易ナル一時的的工作物ノ設置

第二十七條 公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノ

ヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

前項ノ規定ニ依ル歸屬ハ地方長官埋立ノ免許條件ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第二十八條 公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋立地ノ所有權ヲ取得ス

第二十九條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル工事トシテ其ノ國有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル場合ニ限り無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附ス

前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附スルコトヲ得

前二項ノ國有地ハ國ノ所有ニ屬スル水流又ハ水面ヲ包含ス

第三十條 本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

第三十一條 第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地

公有水面埋立法施行令

七一六

ノ一部ヲ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條

左ニ掲クル事項ニ以テハ地長長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否
- 二、内務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許
- 三、前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 四、内務大臣カ甲號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ノ免許及乙號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ニシテ其港灣ノ利用ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許
- 五、海峡、堀割其ノ他ノ狭水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行疏泊ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許
- 六、埋立ノ面積五十町歩ヲ超ユル埋立ノ免許
- 七、第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於ケル公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認

第三十三條

公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ

一、水産物養殖場ノ築造

二、乾船渠ノ築造

本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條

埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條

埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル

法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同ニテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條

本令ニ於テ住所、職業及氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ

所在地、法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條

本令中町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準

スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附 則

公有水面埋立法施行令

七一七

預金部普通地方資金融通規則

(昭和七年十二月十六日大藏省令第三十號)

第一章 總 則

第一條 預金部普通地方資金ノ融通ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第二條 預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ十種トス

- 一、公共團體普通事業資金
- 二、社會事業資金
- 三、耕地整理事業資金
- 四、産業組合事業資金
- 五、森林組合事業資金
- 六、漁業組合事業資金
- 七、畜産組合事業資金

預金部普通地方資金融通規則

預金部普通地方資金融通規則

七二〇

- 八、工業組合事業資金
- 九、輸出組合事業資金
- 十、商業組合事業資金

第二章 融 通 先

第三條

本資金ハ左ノ各號ノ者ニ限り之ヲ融通スルコトヲ得

- 一、公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ、北海道地方費（以下道ト稱ス）府縣、市町村、市町村組合及町村組合
 - ロ、水利組合及北海道土功組合
- 二、社會事業資金ニ在リテハ
 - イ、道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合
 - ロ、住宅組合
 - ハ、産業組合
 - ニ、營業ヲ目的トセサル法人

三、耕地整理事業資金ニ在リテハ

- イ、耕地整理組合
 - ロ、耕地整理組合聯合會
 - ハ、耕地整理共同施行者
 - ニ、耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道府縣、市町村、市町村組合及町村組合
- 四、産業組合事業資金ニ在リテハ
- イ、産業組合
 - ロ、産業組合聯合會
- 五、森林組合事業資金ニ在リテハ
- イ、森林組合
- 六、漁業組合事業資金ニ在リテハ
- イ、漁業組合
 - ロ、漁業組合聯合會
- 預金部普通地方資金融通規則

七二一

預金部普通地方資金融通規則

- 七、畜産組合事業資金ニ在リテハ
 - イ、畜産組合
 - ロ、畜産組合聯合會
 - 八、工業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ、工業組合
 - ロ、工業組合聯合會
 - 九、輸出組合事業資金ニ在リテハ
 - イ、輸出組合
 - ロ、輸出組合聯合會
 - 十、商業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ、商業組合
 - ロ、商業組合聯合會
- 第四條 本資金ノ融通ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一、財務ノ整理良好ナルコト

- 二、事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト
- 産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、工業組合、輸出組合、商業組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三年ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三章 資金ノ用途

第五條 本資金ハ左ノ各號ノ用途ニ對シ之ヲ融通スルモノトス

- 一、公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ、灌漑及排水事業費
 - ロ、災害豫防費
 - ハ、隔離病舎、結核療養所及傳染病院建設費
 - ニ、上水道及下水道費
 - ホ、墓地、汚物取扱場、火葬場及塵芥處分場費
 - ヘ、屠場費
- 預金部普通地方資金融通規則

預金部普通地方資金融通規則

七二四

- ト、道路、河川及渡灣修築並ニ砂防ニ關スル負擔金
- チ、道路、橋梁及渡船場費
- リ、河川及港灣費
- ヌ、開墾及埋立事業費
- ル、學校及教員住宅建設費
- ヲ、電氣及瓦斯事業費
- ワ、軌道及自動車事業費
- 二、社會事業資金ニ在リテハ
 - イ、住宅ノ建設費
 - ロ、公益質屋費
 - ハ、公益市場費
 - ニ、簡易宿泊所費
 - ホ、託兒所費
 - ヘ、職業紹介所費

ト、其ノ他ノ社會事業費

三、耕地整理事業資金ニ在リテハ

イ、耕地整理ニ關スル事業費

四、産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金

工業組合事業資金、輸出組合事業資金及商業組合事業資金ニ在リテハ

イ、當該組合及同聯合會ノ事業費

第四章 資金ノ割當

第六條 地方公共團體、水利組合又ハ北海道土功組合本資金ノ借入ヲ爲サントスルト

キハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書(第一號様

式)ヲ地方長官ヲ經由シテ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務

大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ

前項ノ地方公共團體ニシテ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市(

以下六大都市ト稱ス)以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ前項ニ依

預金部普通地方資金融通規則

七二五

リ大藏大臣ニ提出スル預金部資金借入申込書ハ預金部支部ヲ經由スヘシ

第七條 資金ノ借入ヲ希望スル者道、府縣、六大都市、水利組合又ハ北海道土功組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號様式）ヲ地方長官ヲ經由シ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ
資金ノ借入ヲ希望スル者六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號様式）ヲ預金部支部ヲ經由シテ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ
前二項ノ預金部資金供給稟請書ニハ起債決議書寫、起債許可書寫及供給稟請額ノ償還年次表ヲ添附スヘシ

第八條 地方公共團體、水利組合及北海道土功組合以外ノ者本資金ノ借入ヲ爲サントストキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書（第一號様式）ヲ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第三號乃至第七

號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ地方長官ヲ經由シテ提出スヘシ

第九條 第六條及前條ノ期限ハ大藏大臣ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第十條 本章ノ規定ニ依リ預金部支部ヲ經由シテ提出スヘキ書類ニハ預金部支部ノ出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由スルコトヲ要ス

第五章 資金ノ融通

第一節 總 則

第十一條 地方公共團體ニ對スル資金ノ融通ハ直接預金部ニ於テ之カ取扱ヲ爲スモノトス

地方公共團體以外ノモノニ對シテハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ヲ經由シテ資金ノ融通ヲ爲スモノトス但シ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ此外尙道、府縣轉貸ノ方法ニ依リ融通ヲ爲スコトアルヘシ

預金部普通地方資金融通規則

第十二條 地方公共團體ニ對スル預金部資金ノ融通ハ當該地方債證券ノ引受又ハ貸付ノ形式ニ依ルモノトス

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對スル預金部資金ノ融通ハ債券引受ニ依ルモノトス但シ三年以内ノモノニ限り貸付ノ形式ニ依ルコトアルヘシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル地方債證券、債券又ハ貸付金ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルヘシ

第十四條 月本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還又ハ年賦償還、産業組合中央金庫ノ預金部資金貸付ハ定期償還若ハ年賦償還又ハ手形割引、日本興業銀行ノ預金部資金貸付ハ定期償還又ハ手形割引ノ方法ニ依ルモノトス

前項ノ定期償還貸付ノ償還期限ハ五年以内トシ年賦償還貸付ノ償還期限ハ五年以内

ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルヘシ

第十五條 前四條ノ外預金部資金ノ融通利率其ノ他ノ融通條件ニ關シテハ大藏大臣ノ時時定ムル所ニ依ルモノトス

第二節 地方公共團體ニ對スル資金ノ融通

第十六條 地方公共團體第七條ノ規定ニ依ル預金部資金ノ供給稟請ニ對シ資金供給ノ決定通知ヲ受ケタル場合ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ預金部資金交付申請書(第三條様式)ニ償還年次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部ニ六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ預金部支部ニ之ヲ提出スヘシ但シ資金ノ交付ヲ受クヘキ期日ハ預金部資金交付申請書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條 地方公共團體日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ含ム以下同シ)ヨリ現金預金部普通地方資金融通規則

ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ地方債證券(第四號様式)又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行當該店ニ提出スヘシ

前項ニ依リ地方公共團體カ日本銀行代理店ニ地方債證券又ハ借用證書ヲ提出スル場合ニ於テハ之カ送付書ヲ添附スヘシ

第十八條 道、府縣又ハ六大都市カ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル預金部資金ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第三節 地方公共團體以外ノ者ニ對スル資金ノ融通

第十九條 地方公共團體以外ノモノニ對シ預金部資金供給ノ決定アリタルトキハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ債券ノ引受又ハ預金部資金貸付申請書(第六號様式)又ハ第七號様式)ヲ預金部ニ提出スヘシ

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ債券ノ引受又ハ預金部資金貸付申請書(第六號様式)又ハ第七號様式)ヲ預金部ニ提出スヘシ

出スヘシ

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫前項ノ申請ニ依リ日本銀行本店ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ債券又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行本店ニ提出スヘシ

第二十條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫前條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スヘシ

第二十一條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫預金部資金ノ貸付ヲ爲ノ場合ニ於テハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金ノ預金部資金ナルコト並ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且左記事項ヲ定ムヘシ

一、債務者カ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的以外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ亘リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セザルトキハ之ヲ返還スルコト

二、預金部ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトアルヘキコト

第二十二條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合

中央金庫ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタル預金部資金中不用トナリタルモノアルトキハ其金額ニ相當スル金額ヲ最近ノ元利金支拂期日ニ於テ償還スヘシ但シ債券發行ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ券面額ニ充テサル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十三條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スヘシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號及第二號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、内務大臣及地方長官ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、農林大臣及地方長官ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、商工大臣及地方長官ニ提出スヘシ

第六章 償還及利子拂

第二十四條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本

興業銀行又ハ産業組合中央金庫其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金内譯書（第八號様式）ヲ添ヘテ送金シ預金部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號様式）ヲ送付スヘシ

第二十五條 六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ當該融通金ノ交付ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ預金部資金元利金内譯書（第八號様式）ヲ添ヘテ送金シ預金部支部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號様式）ヲ送付スヘシ

第二十六條 地方公共團體ニ於テ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ繰上償還ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ變更償還年次表ヲ添ヘ預金部ノ承認ヲ受クヘシ
地方公共團體前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ最近ノ元利金支拂期ニ於テ償還スヘシ

第七章 雜

第二十七條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合

預金部普通地方資金融通規則

預金部普通地方資金融通規則

七三四

中央金庫ハ其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ニ付別ニ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ

第二十八條 地方公共團體、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ毎年十二月三十一日現在ヲ以テ預金部資金ノ使用狀況報告書(第十號様式)又ハ貸付狀況報告書(第十一號様式)ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ預金部ニ提出スヘシ但シ六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ該報告書各二通ヲ調製シテ翌年一月三十一日迄ニ預金部支部ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名 何年度何資金

一、金額 何圓

一、資金ノ用途 何事業(何々ノ爲轉貸)

一、償還方法 年賦(定期)

一、期 限 何年据置何年何月迄ニ償還(定期償還ノ場合)

一、資金ヲ必要トスル時期 何年何月

右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

年月日

借入申込者 氏

名 印

大臣 大臣 大臣 大臣 大臣 大臣 大臣 大臣 大臣 大臣

註 本申込書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト

附屬樣式

第四號樣式 附屬樣式

七四〇

所有者	大藏大臣
第一、此ノ(道府縣市町村)	發行ノ日ヨリ昭和何
第二、此ノ(道府縣市町村)	ヲ償還ス
第三、此ノ(道府縣市町村)	分ノ何トス
第四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第二十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第三十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第四十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第五十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第六十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第七十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第八十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十一、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十二、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十三、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十四、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十五、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十六、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十七、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十八、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第九十九、此ノ(道府縣市町村)	ノトス
第一百、此ノ(道府縣市町村)	ノトス

註
一、證券ノ券面種類ハ百圓、五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓トシテ
二、證券ハ縦四寸四分横九寸一分(曲尺)
三、證券ハ普通活版ニ附シ別ニ色刷等ヲ爲スニ及ハサルモ活字ノ大サハ六號ト
四、證券ニハ利札ヲ附セサルコト

第五號樣式

消印	印紙
借金ノ用途	書
何事業(何々ノ爲轉貸)	年何分何厘
元利金支拂ノ場所	日本銀行何店
元利金支拂ノ時期	(註參照)
元利金支拂ノ方法	
資金ノ用途	
利率	
大藏大臣 氏 宛	借受人 氏 名

一金何圓也
右金額ハ何事業(轉貸)資金ニ充當ノ爲左記條件ヲ以テ預金部ヨリ本日借用仕候就而
右元利金ハ借入條件ヲ遵守シ支拂可仕候也
追而本資金ニ關シ預金部ニ於テ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議
無之又本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證券(何々
債券)ニ引換可申候
記
一、資金ノ用途
一、利率
一、元利金支拂ノ方法及時期
一、元利金支拂ノ場所
大藏大臣 氏 宛
借受人 氏 名
附屬樣式

七四一

附屬様式

七四二

註 一、元利金支拂方法及時期ノ項ニハ

(イ) 年賦償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「別紙償還年次表」ノ通り償還スルキノトス(但シ本資金ニ依ル貸付金返済高カ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其超過額モ同時ニ償還シ又本資金ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ放テ該返済額相當ノ償還ヲ爲スモノトス) 借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス「ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スヘキ資金ヲ借入レタル者ニ限り記載スルコト

(ロ) 定期償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「何年何月何日元金全額ヲ償還ス(但シ本資金ニ依ル貸付金カ期限前ニ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ利子支拂期ニ於テ之カ相當額ヲ償還スルモノトス) 利子ハ毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スヘキ資金ヲ借入レタル者ニ限り記載スルコト

二、元利金支拂場所ノ項ノ何店ハ本資金ノ貸付ヲ取扱ヒタル日本銀行ノ店名ヲ記載スルコト

三、収入印紙ノ貼付ハ公共團體以外ノ借受人ニ限ルコト

第六號様式

債券引受申請書

- 一、資金年度及資金名 何年度何々資金
- 一、債券發行高 何 圓
- 一、債券ノ記號又ハ回別 何號又ハ第何回
- 一、各債券ノ金額 何萬圓及何千圓
- 一、債券ノ總枚數 何萬圓券何枚、何千圓券何枚(記名利札付トス)
- 一、利子歩合 年何分何厘
- 一、發行價格 額面百圓ニ付百圓
- 一、申込日期日 何年何月何日
- 一、拂込及發行期日 何年何月何日
- 一、据置期限 何年何月何日(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セス)
- 一、償還期間 何年何月何日ヨリ向フ何年以内(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項記入ヲ要セス)
- 一、償還方法 何年何月第一回ノ償還抽籤ヲ執行シ以後毎年二回(何月何月)抽籤ヲ爲シ毎回元金何萬圓以上ヲ其ノ翌月ニ償還

附屬様式

七四三

附屬様式

七四四

一、元金及利息支拂期

シ何年何月何日残額全部ヲ償還ス但シ本資金ニ依ル貸付金返済高カ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本債券ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ全部又ハ一部ノ返済アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返済額相當ノ償還ヲ爲スモノトス(一時ニ償還スルモノニ付テハ其ノ償還期日ノミヲ記入スルコト)

右ハ預金部資金ヲ以テ御引受相成度此段申請候也

年 月 日

預金部長 氏 名 宛

申請者 氏 名 宛

第七號様式

預金部資金貸付申請書

- 一、資金年及資金名
- 一、金 額
- 一、利 率
- 一、借入 期 日
- 一、償還 方 法

何年度何資金
何 圓
年何分何厘
何年何月何日
何年何月何日

何 圓

一、利子支拂期

但シ本資金ニ依ル貸付金返済高カ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ返済スルモノトス
毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ返済ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フ

右預金部資金ヲ以テ御貸付相成度此段申請候也

年 月 日

預金部長 氏 名 宛

貸付申請者 氏 名 宛

附屬様式

七四五

預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程

第一章 地方公共團體

第一節 道、府縣及六大都市

第一條 豫金部普通地方資金融通規則（以下融通規則ト稱ス）第六條第一項ノ規定ニ依ル豫金部資金借入申込書ノ提出アリタルトキハ大藏大臣ハ内務大臣又ハ農林大臣ト協議ノ上本資金ノ割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二條 前條ノ規定ニ依リ割當額ノ決定アリタルトキハ大藏大臣及内務大臣又ハ農林大臣ハ之ヲ當該道、府縣及六大都市ニ通知スルモノトス

第二節 六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合

第三條 地方長官融通規則第六條第二項ノ規定ニ依ル豫金部資金借入申込書ノ提出ヲ受ケタル時ハ特ニ本資金ヲ必要トスルモノニ付其ノ年度内ニ融通スルヲ適當ト認ム

預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程

預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程

七五四

ル金額ヲ記載シタル書類ヲ添付シ之ヲ毎年五月三十一日迄ニ融通規則第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ内務大臣ニ同第二條第三號ノ資金ニ在リテハ農林大臣ニ進達スヘシ

第四條 預金部支部長融通規則第六條第二項ノ規定ニ依ル預金部資金借入申込書ノ提出ヲ受ケタルトキハ特ニ本資金ヲ必要トスルモノニ付其ノ年度内ニ融通スルヲ適當ト認ムル金額ヲ記載シタル書類ヲ添付シ之ヲ毎年五月三十一日迄ニ大藏大臣ニ進達スヘシ

第五條 六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ノ借入申込ニ對スル本資金ノ割當手續ニ付テハ第一條ノ規定ニ依ル

第六條 前條ノ規定ニ依リ割當額ノ決定アリタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ預金部支部長ニ大藏大臣及内務大臣又ハ農林大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス
預金部支部長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該市町村、市町村組合又ハ町村組合ニ通知スヘシ但シ預金部支部ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由シテ之ヲ通知スヘシ

第二章地方公共團體以外ノ者

第七條 地方長官融通規則第八條ノ規定ニ依ル預金部資金借入申込書ノ提出ヲ受ケタルトキハ特ニ本資金ヲ必要トスルモノニ付其ノ年度内ニ融通スルヲ適當ト認ムル金額ヲ記載シタル書類ヲ添付シ之ヲ毎年五月三十一日迄ニ融通規則第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、同第二條第三號乃至第七號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、同第二條第八號乃至第十號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ進達スヘシ

第八條 大藏大臣ハ内務大臣、農林大臣又ハ商工大臣ト協議ノ上資金ノ割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第九條 前條ノ規定ニ依リ割當額ノ決定アリアルトキハ大藏大臣及内務大臣、農林大臣又ハ商工大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス
地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該借入申込者ニ通知スヘシ
大藏大臣ハ銀行其ノ他ノ經由機關ニ本資金ノ割當アリタル事ヲ通知スルモノトス

預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程

七五五

預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程

七五六

附 則

本規程ハ昭和九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金部普通地方資金供給決定報告書

(經由機關名)

借入團體名	借入希望額	供給決定額	借入金ノ使途	備考
計				
前回迄報告済額				
合計				

右及報告候也

年 月 日

北海道廳長官
何府縣知事

氏

名 宛

内務大臣
大藏大臣
農林大臣
工商大臣

氏 名 宛

(註) 宛人毎ニ各別ニ調製提出スルコト

預金部地方資金利子計算ニ關スル件

一、第一回ノ利子支拂期日ニ於テ支拂フヘキ利子カ端數トナル場合

$$\text{元金} \times \frac{\text{利率}}{2} \times \frac{\text{融通ノ翌日ヨリ第一回利拂期日ノ當日迄ノ日數}}{\text{第一回利拂期日直前利拂期日ニ該當スヘキ日ノ翌日ヨリ第一回利拂期日ノ當日迄ノ日數}}$$

二、最終ノ利子支拂期日ニ於テ支拂フヘキ利子カ端數トナル場合

$$\text{元金} \times \frac{\text{利率}}{2} \times \frac{\text{最終ノ利拂期日ノ直前ノ利拂期日ノ翌日ヨリ最終ノ利拂期日ノ當日迄ノ日數}}{\text{最終ノ利拂期日ノ直前ノ利拂期日ノ翌日ヨリ次ノ利拂期日ニ該當スヘキ日迄ノ日數}}$$

一、第一回ノ利子支拂期日ニ於テ支拂フヘキ利子カ端數トナル場合

元金100,000圓ヲ下記條件ニテ貸付ケタル場合ノ端數利子額ヲ求ム

利率 年 三分二厘

貸付年月日 昭和七年十二月七日

利子支拂期 三月一日及九月一日ノ二回

預金部地方資金利子計算ニ關スル件

預金部地方資金利子計算ニ關スル件

七五八

解昭和八年三月一日ノ拂ノ利子額カ端數利子トナル

- 1 融通ノ翌日（昭和七年十二月八日）ヨリ第一回利拂期日ノ當日（昭和八年三月一日）迄ノ日數 84日

- 2 第一回利拂期日直前ノ利拂期日ニ該當スヘキ日ノ翌日（昭和七年九月二日）ヨリ第一回利拂期日ノ當日（昭和八年三月一日）迄ノ日數 181日

$$3 \quad 1000,000 \times \frac{0.032}{2} \times \frac{84}{181} = 742,5414\dots \text{依ツテ昭和八年三月一日拂端數利子額} 742 \text{圓} 54 \text{錢}$$

二、最終ノ利子支拂期日ニ於テ支拂フヘキ利子カ端數トナル場合

下記條件ニ依リ融通シタル場合ノ最終ノ利子支拂期日（下記ノ元利金支拂期ニ非サル期日ノ場合ノ場合ニ限ル）ニ於テ殘元金ノ全額 100,000 圓ヲ償還スル場合ノ端數利子額ヲ求ム

利 率 年三分二厘

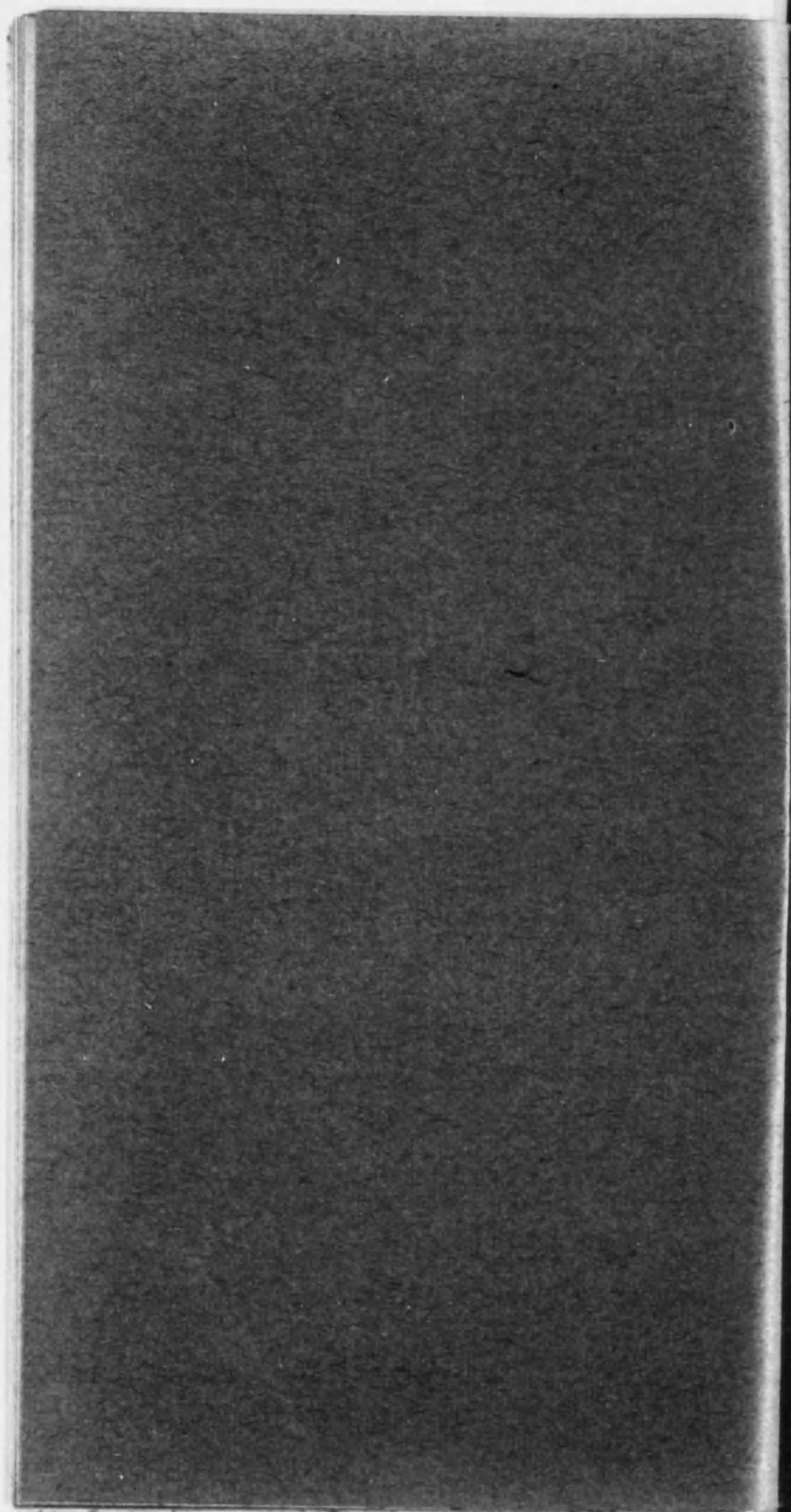
最終償還期日 昭和七年十二月七日

元金支拂期日 三月一日及九月一日ノ二回

- 解 1 最終ノ利拂期日ノ直前ノ利拂期日ノ翌日（昭和七年九月二日）ヨリ最終ノ利拂期日ノ當日（昭和七年十二月七日）迄ノ日數 97日

- 2 最終ノ利拂期日ノ直前ノ利拂期日ノ翌日（昭和七年九月二日）ヨリ次利拂期日ニ該當スヘキ當日（昭和八年三月一日）迄ノ日數 181日

$$3 \quad 1000,000 \times \frac{20.03}{2} \times \frac{97}{181} = 857,458\dots \text{依ツテ昭和七年十二月七日拂端數利子額} 857 \text{圓} 45 \text{錢}$$



THE HISTORY OF THE
CITY OF BOSTON
FROM THE FIRST SETTLEMENT
TO THE PRESENT TIME
BY NATHANIEL BENTLEY
VOL. I
BOSTON: PUBLISHED BY
J. B. ALLEN, 1856.

宮城縣々稅賦課徵收規則

第六章 雜 種 稅

第三十四條 雜種稅ノ課目額ハ毎年度別ニ之ヲ定ム

第三十五條 船稅ハ動力船（蒸汽船及發動機船）ニ在リテハ總噸數ヲ其ノ他ノ船ニ在リテハ間數ヲ標準トシテ賦課ス

船ノ間數計算ハ總長三分ノ二ヲ以テ其ノ長サト看做ス

第三十七條 市場稅ハ常設、臨時ニ區分シ種別及市町村ノ等位ニ依リ定額ヲ以テ賦課ス

第四十五條 漁業稅ハ市町村ニ配當ス但シ漁業ノ種類ニ依リ課目課額ヲ以テ賦課標準ヲ別ニ定メ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ年額ヲ一時ニ徵收ス

第四十六條 漁業稅ノ市町村ニ配當シタル課額ハ賦課期日現在其ノ市町村當業者ノ負擔總額トス

前項課額ヲ各當業業ニ賦課スル方法ハ毎年六月十日迄ニ市町村會ニ於テ之ヲ決議ス

宮城縣々稅賦課徵收規則

漁業組合ニ於テ漁業權ヲ獲得シタルモノニ對シテハ賦課方法ノ定ムル處ニ依リ其ノ組合ニ賦課スルコトヲ得

第五十八條 遊漁稅ハ漁業者ニ非ラサル捕魚者ニ定額ヲ以テ之ヲ賦課ス

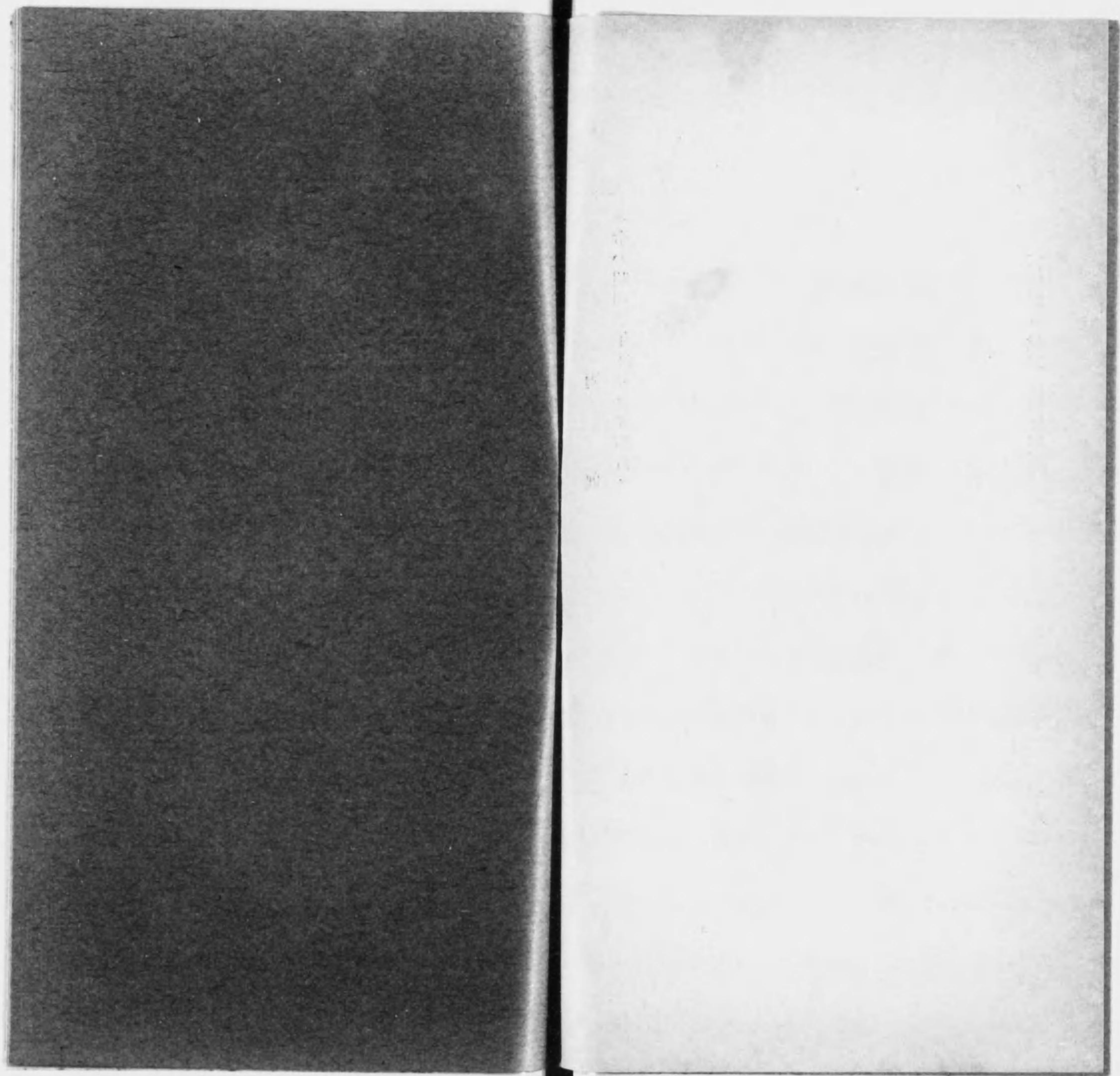
第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ雜種稅ヲ賦課セス
一、公共團體產業組合其ノ他公益法人ニ於ケル不動産取得、立木伐採
二、產業組合其ノ他公益法人所有ノ直接組合又ハ法人用ニ供スル物件
七、製造者ノ製作品又ハ物品販賣業者ノ商品ニシテ使用ニ供セサル物件

- 一一、航海中本船ニ掲ケ置ク傳馬船、解船
- 一二、田船（水田ニ限り使用スルモノ）及海苔採取専用ノ小船
- 一五、漁業組合ニ於ケル共同販賣所及二歲牛馬ノ市場
- 二六、十三歲未滿又ハ六十歲以上ノ者ニシテ自ラ魚藻採捕ニ從事スル者
- 二六ノ二、漁業組合ノ有スル漁業權
- 三五、年齡十三歲未滿又ハ六十五歲以上ノ者及不具廢疾者ノ爲ス遊漁

附 則
本令ハ昭和二年度分ヨリ施行ス

宮城縣々税賦課徴收規則

七六三



農林省分課規程

(昭和八年十一月十三日改正施行)

第十九條 水産局ニ漁政課、監督課及海洋課ヲ置ク

第二十條 漁政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、漁政上諸般ノ調査ニ關スル事項
- 二、水産會ニ關スル事項
- 三、漁業組合ニ關スル事項
- 四、専用漁業其ノ他漁業ノ免許ニ關スル事項
- 五、沿岸(内水ヲ含ム)漁業ノ取締ニ關スル事項
- 六、水産増殖ニ關スル事項
- 七、遡河漁類保護調査ニ關スル事項
- 八、漁業共同施設獎勵ニ關スル事項
- 九、水産冷蔵獎勵ニ關スル事項

農林省分課規程

- 十、漁業登録令ニ依ル登録ノ申請書又ハ囑託書ノ接受及登録ニ關スル事項
- 十一、水産講習所、水産試験場並ニ地方水産試験場及講習所ニ關スル事項
- 十二、他課ノ主宰ニ屬セサル事項

第二十條ノ二 監督課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、日「ソ」漁業條約及露領水産組合ニ關スル事項
- 二、機船底曳網漁業、汽船「トロール」漁業、捕鯨業、母船式漁業等ノ取締ニ關スル事項
- 三、水産組合同業組合其他水産團體ニ關スル事項
- 四、水産物ノ利用増進及検査ニ關スル事項

第二十一條 海洋課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、遠洋漁業ノ指導獎勵ニ關スル事項
- 二、漁船ニ關スル事項
- 三、漁業用發動機検査ニ關スル事項
- 四、漁港ニ關スル事項
- 五、鰻鮎獸保護ニ關スル事項

鮑及海鼠製品取締規則

(大正五年八月九日農商務省令第二十五號)

鮑及海鼠製品取締規則左ノ通定ム

鮑及海鼠製品取締規則

第一條 乾鮑、罐詰鮑及海參ハ別表ニ掲クル重量以上ノモノニ非レハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二條 乾鮑、罐詰鮑及海參ヲ販賣スル者ハ其ノ容器又ハ包裝ニ品名及原産地名ヲ表示スヘシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ所有シ又ハ所持スル製品ハ之ヲ沒收ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條ノ規定ニ違反シ又ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

鮑及海鼠製品取締規則

鮑及海鼠製品取締規則

附 則

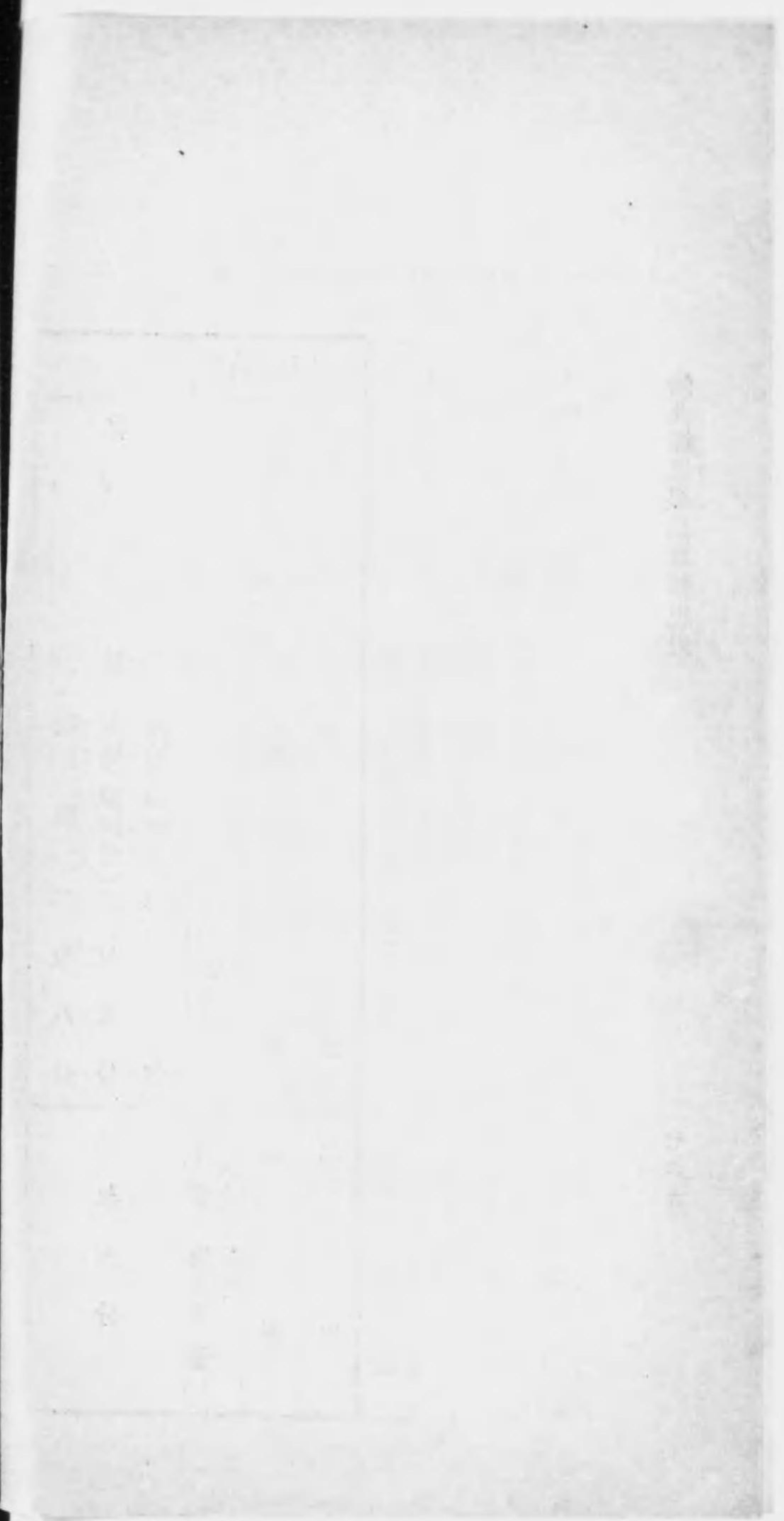
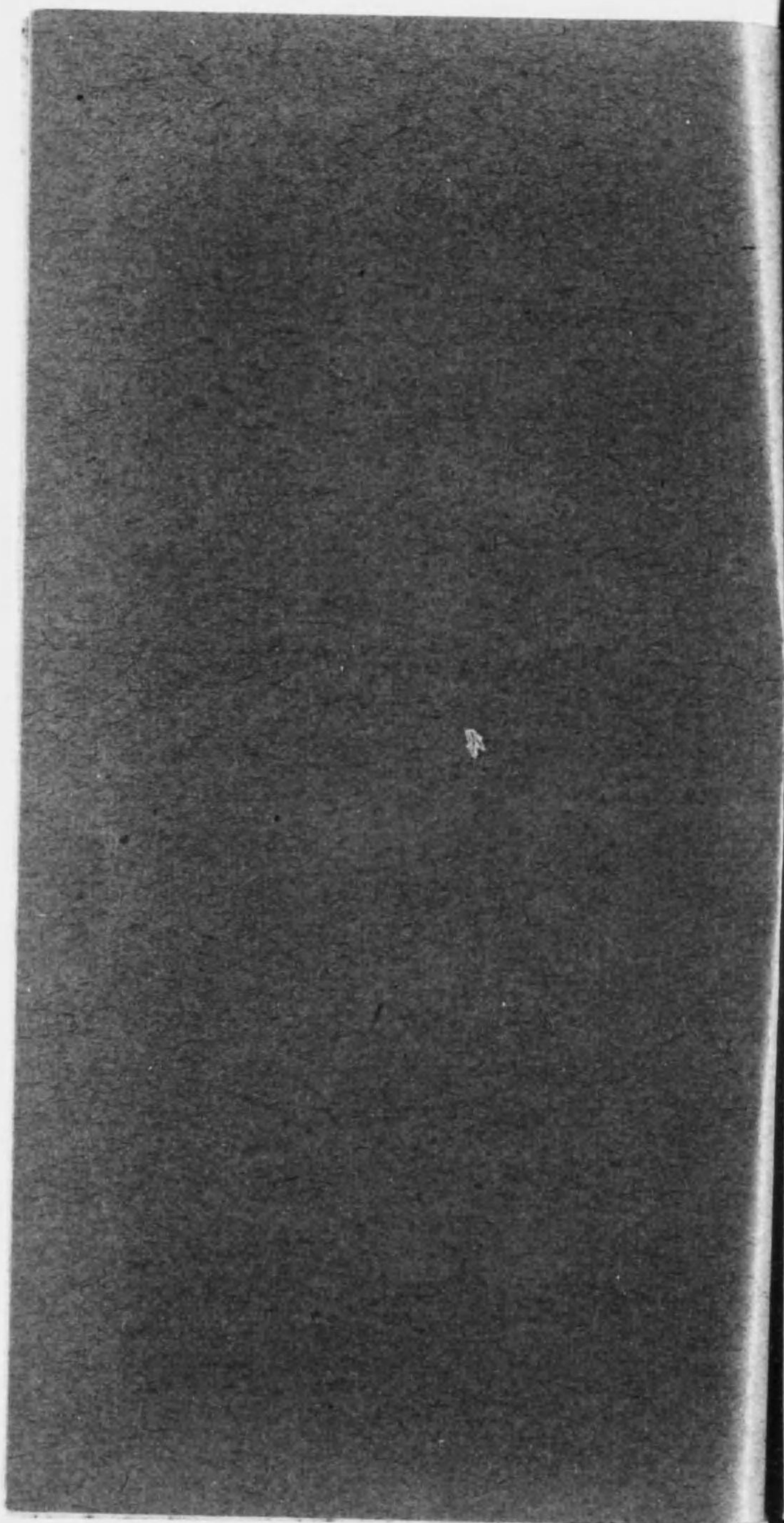
本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 海參ニ付テハ大正六年六月三十日迄本則ノ規定ヲ適用セス

別 表

品 製 鮑	種 類	乾鮑一箇ノ重量(上乾)	罐詰鮑一箇ノ重量
ま だ か	えぞ (青森縣、岩手縣、 宮城縣產ヲ除ク)	明 鮑 一 匁 五 分 灰鮑(臟腑付)二 灰鮑(臟腑拔)一 匁 六 分	三 匁
	明 鮑 四	灰鮑(臟腑付)五 灰鮑(臟腑拔)四 匁 三 分	七 匁 五 分

鮑及海鼠製品取締規則

品 製 鼠 海			其 他
其	沖 産	繩 地	明 鮑 二 匁 八 分 灰鮑(臟腑付)三 匁 五 分 灰鮑(臟腑拔)三 匁
他	縣	海參一箇ノ重量 (上乾)	五 匁 五 分
二 匁	五 匁		



水產課事務分掌

(昭和九年八月十八日改正)

官氏名	(事務)	橋本主事	佐藤屬	岩井屬	玉谷主事補	佐々木主事補	佐々木屬
許漁業 可免 取締許							
指水產業 導水產 獎水產 勵施設	魚市場						
指水產 導團體 監督	其漁業 團體						
災害復舊 時局匡救	津浪防備		漁港修築 豫算	災害復舊	船溜船揚場		
其他	經濟更生 船保險救 難		水產試驗 場	漁業登錄 水產金融		鑛油免稅	

水產課事務分掌

水産課事務分掌

成澤 技手	瀧澤 技手	高橋 技手	新妻 技手	佐川 工師	菊池 技師	台原 技師	(技術)	佐藤(大)雇	佐藤(庄)雇
	沿岸漁業取締	同(宮城以南)淡水漁業免許増殖設備	鹹水漁業免許(本吉)製		同(桃生)省令漁業許可製	鹹水漁業免許(牡鹿)遠洋漁業			
		殖設	業		水藏業	業			
		牡蛎水産組合	罐詰水産組合		製冷水産組合	遠洋漁業者組合			
津浪防備	船留船揚場	養殖施設		津浪防備	漁港修築			災害諸務	災害諸務
								水産諸務	定例報告

七七二

太田雇	山本 技手	沿 岸 漁 業	定置漁業者組合	災害諸務	船鑑札
	縣令漁業許可	運搬、救難設備		匡救諸務	漁船救難
					膳本下附

水産課事務分掌

七七三

昭和十年三月二十五日印刷
昭和十年三月三十日發行

編輯所 宮城縣水産會

仙臺市肴町一一六

印刷人 佐久間龜太郎

仙臺市肴町一一六

印刷所 佐久間活版所

電話一九七八番

終